

NSK60 周年に寄せて



日本建築仕上材工業会
会長 藤井 実広

暑中お見舞い申し上げます。

日頃より当工業会の活動に格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、本年、日本建築仕上材工業会は、設立 60 周年という大きな節目を迎える運びとなりました。まずは、永年にわたり当工業会の活動を支えてくださった皆様に、深甚なる感謝の意を表します。併せて、設立当初より業界の健全な発展にご尽力いただいた諸先輩方、ならびに関係官庁、関連団体、各分野の関係者の皆様に対し、改めて御礼を申し上げます。

1965 年（昭和 40 年）、高度経済成長期における住宅・団地建設の進展を背景に、当工業会の前身である「防水リシン工業会」が設立されました。設立当初は、主にセメント系吹付け塗材を中心とする製品の品質向上と施工技術の普及を目的として活動を開始し、建築仕上分野における基盤づくりに取り組んでまいりました。その後、建築に求められる性能や意匠が多様化する中で、材料や工法も急速に進化し、当工業会の活動領域も次第に広がっていくこととなりました。こうした業界の変化に対応すべく、1980 年（昭和 55 年）には、組織の名称を現在の「日本建築仕上材工業会」へと改称し、今日では塗材にとどまらず、左官材、床材、防水材、下地調整材など、建築仕上げ全般を包括する体制へと発展を遂げています。

この 60 年の歩みの中で、我が国を取り巻く社会環境は大きく変化してまいりました。都市化の加速、省エネルギー・環境重視への転換、カーボンニュートラルへの取り組み、価値観の多様化といった変遷の中で、建築に求められる要件も、「量から質へ」「画一性から多様性へ」と大きく舵を切っております。これに伴い、建築仕上材業界にも、より高機能で安全性に優れ、かつ持続可能性を備えた製品および工法の提供が求められております。中でも、気候変動への対応や、持続可能な社会の構築に対する貢献は、極めて重要な使命と認識しております。建物のライフサイクル全体を通じた CO₂排出量の削減が求められる中、環境負荷を低減しつつ、建築物の寿命を延ばし、耐久性に優れた製品の普及に努めることは、当工業会の果たすべき本質的な役割であります。また、建設業界全体が抱える人手不足や高齢化といった構造的課題に対しても、省力化・軽量化・高性能化といった技術的対応を通じて寄与していくことが求められております。こうした諸課題への対応は、一企業あるいは一団体の力のみで成し遂げられるものではありません。業界全体が連携と協調のもとに知見を共有し、未来志向の基盤を築いていくことが、今後ますます重要となってまいります。

60 周年という節目は、これまでの歩みを振り返るとともに、次の時代に向けた新たな一步を踏み出す契機でもあります。当工業会は、建築仕上材の持つ可能性を改めて見つめ直し、今後の社会に求められる技術革新と責任ある取り組みを両立させながら、次世代へとつなぐ活動を進めてまいります。そして、「安心・安全・快適な居住空間の実現」を基本理念に、業界の健全な発展に貢献すべく、今後も力を尽くしてまいります。

最後に、皆様のご健勝とご多幸をお祈りすると共に、引き続き当工業会へのご支援とご高配を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。